

日本ナシ「あきづき」における新一文字型樹形の開発

福島県農業総合センター果樹研究所

1 部門名

果樹—ナシ—樹形

2 担当者

額田光彦・湯田美菜子・斎藤祐一・阿部和博

3 要旨

改植による早期成園化や作業性向上のため、早急に、省力的で高品質果実生産を可能とする栽培技術の確立が望まれている。新一文字型樹形栽培について、樹体生育特性や果実生産性について調査した。

(1) 2007年3月にほ場に苗木を定植し、現在7年生の樹を用いた。新一文字型樹形は3m×7m植(48本/10a)、慣行樹形は7m×7m植(20本/10a)である。

(2) 樹体生育において、主枝周は新一文字区が慣行区よりも優っていた(表1)。

(3) 果実品質や花芽分化には樹形による差は見られないものの(表3、表4)、10a当たり収量および定植後6年までの1樹当たり収量は新一文字区が優る傾向が認められた(表2、図1、図2)。

(4) 以上のことから、新一文字型は初期に多収量を可能にする樹形と思われる。

試験区	主幹周 (cm)	主幹増加量 (cm)	主枝周 (cm)	主枝長 (cm)	先端新梢長 (cm)	側枝本数
新一文字	29.4	3.5	21.1	295.2	56.2	27.0
慣行	30.6	4.0	17.6	275.5	53.1	32.3
t検定	ns	ns	**	ns	ns	ns

**は1%水準で有意差あり

区	腋花芽分化率(%)
新一文字	31.2
慣行	42.1
t検定	ns

試験区	収量 (kg)	主幹断面積 当たり収量 (kg/cm ²)	収穫果数	一果重 (g)
新一文字	73.3	1.1	146.3	501.2
慣行	70.2	0.9	142.0	493.5
t検定	ns	ns	ns	ns

区	硬度 (lbs.)	地色 指数	RM 示度	pH	リンゴ酸 (%)
一文字	5.5	3.8	13.2	5.10	0.07
慣行	5.1	4.1	13.0	5.10	0.07
t検定	ns	ns	ns	ns	ns

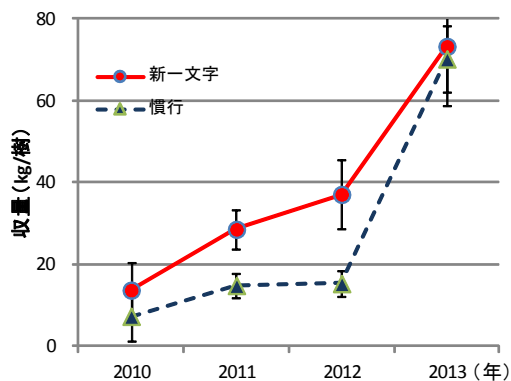


図1 1樹当たり収量の推移

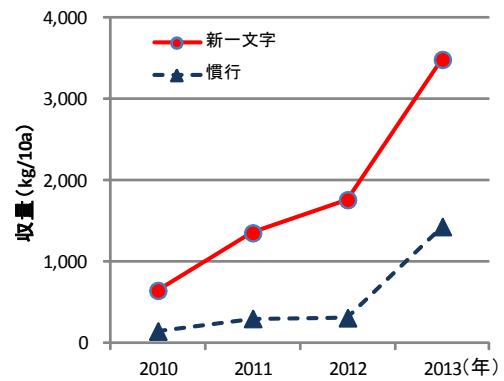


図2 10a当たり収量の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～25年度
- (2) 研究課題名 平棚を利用した新一文字型樹形の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成25年度試験研究成績書

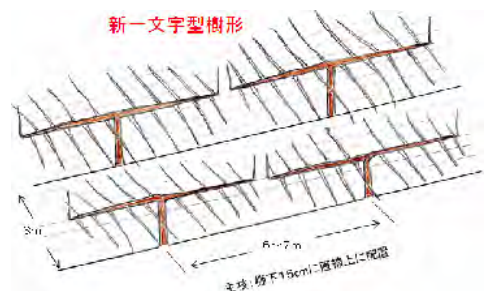


図3 新一文字型樹形の模式図